

管内の百名山

たんざわやま 「丹沢山」

神奈川県の屋根といわれる丹沢山地は、県北西部に位置する東西約40km、南北約20kmに及ぶ山塊で、最高峰の蛭ヶ岳(1,673㍎)を始めとする六十数座もの千㍎級の山々が連なり、重なり合っています。

百名山の丹沢山(1,567㍎)は、この山塊に座していますが、「日本百名山」の著者はその中で、「私が百名山の一つに丹沢山を取り上げたのは、個々の峰ではなく、全体としての立派さからである」と著しています。そもそも、丹沢山とは、丹沢中央部に連なる山群の総称であったといわれています。



鬼ヶ岩から丹沢山塊（蛭ヶ岳）を望む



蛭ヶ岳と黄葉

かつての山岳信仰の地も、今は国定公園等に指定され、憩いの場に。山塊の主脈に接する国有林も全域(約1,300㍎)が丹沢自然休養林に指定され、多くの人々に親しまれています。

入山者数が年間30万人にも達し、首都圏の貴重なオアシスとなっている丹沢山塊ですが、近年、ブナの立枯れやシカの食害による林床植生の衰退、登山道周辺林内の踏圧による表土流出などの問題が顕在化しています。



シロヤシオ

サラサドウダン

このため、現在、東京神奈川森林管理署では、自然休養林に相応しい森林として整備することとして、土壌流出防止対策(丸太筋工)やシカ食害防止対策(柵設置)、間伐などに取り組んでいるところです。

早春のサクラソウに始まり、初夏のシロヤシオやサラサドウダン等の花々、霧氷の衣をまとう冬季と、四季を通じて訪れる者を魅了してやまない丹沢山塊。いつまでも人々の心に残る百名山であってほしいものです。

(東京神奈川森林管理署広報広聴連絡官)